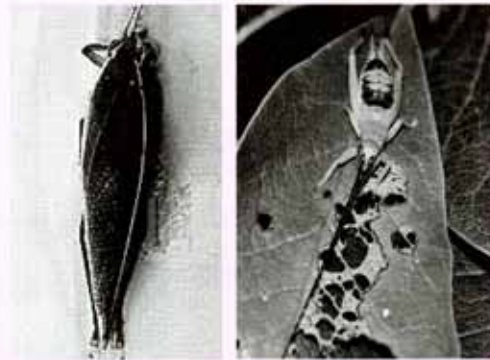


アオマツムシ

「ハツタ目・コオロギ科」

8月下旬、木立や街路樹からリー・リー・リーと、著しく大きな鋭い鳴き声が聞こえるようになります。普通の鳴く虫の声は草原や石の下などから聞こえますが、この鳴き声は頭の上から聞こえてきます。アオマツムシです◆卵で越冬し、孵化は5月下旬から6月、成虫は8月下旬から9月に出現し、11月まで鳴き声が聞こえますが、



アオマツムシの成虫(左)、モクレンの葉を食害する幼虫(右)

秋も深まると鳴き声が小さくなります。分布は本州(主に関東)〜九州◆この昆虫は中国から侵入したと推定されており、1900年前後に東京で発見されました。その後、分布を拡大して、鹿児島では2002年に確認されました。東京や埼玉では、1980年代から増加し、渋谷、新宿、池袋などの都会の街路樹でも鳴き声が顕著になりました◆成虫の体長は23〜28mm、全体に舟形をしており、体色は緑色、前翅は緑色くやや褐色です。幼虫は扁平で全体に緑色ですが、背はやや褐色の場合があります◆幼虫、成虫ともに広葉樹の葉をなめるように食べます。1980年代から、カキとリンドゴの果実を食べる被害と、ナシの新梢への産卵被害が問題になっています◆秋の夜長を鳴き通す、美しい虫の鳴き声とのイメージのあるマツムシの仲間ですが、このアオマツムシは、大変大きな声で、迷惑な場合もあります。

(江村 薫)

おごせアートミュージアム 特別編

山田照夫さん、中央公民館にて水彩画展を開催



8月20日から9月2日まで、中央公民館にて、『山田照夫水彩画展』が開催されました。同展は、小杉在住の山田さんが描いた越生の風景画100点を集めて開催されたものです。



山田さんの画法は、ボールペンによる下書きの上に絵の具を塗っていくという独特なもの。今回出展された絵画は、全て山田さんがこの1年間に描いたもので、しかもそれ以前は水彩画をほとんど描いたことがなかったというから驚きです。

「もともと、趣味で油絵を描いていました。1年前、たまたま水彩画を描き、町の文化祭に出展したところ、予想外に好評となり、それから水彩画で越生町の風景を描き始めたんです。今回、描いたものの数が100点を越えたため、展覧会を開くことになりました。住み慣れた町ですが、描くたび、毎回新たな発見があります。」

これからも、山田さんの描く水彩画は、私たちの知らなかった越生町の新たな側面を、輝きともに見せてくれることでしょう。

9月の納税

固定資産税 第3期
国民健康保険税 第3期
(10月1日まで)

人口と世帯

8月1日現在
()は前月比

総人口 12,666人(-30)
男性 6,310人(-20)
女性 6,356人(-10)
世帯数 4,914世帯(-52)

※世帯数の減少は法改正に伴うもの

あとがき

小特集・越生まつりフォトポートロイカがだっただけでしょうか。あの日、町を包み込んだ熱気と感動を、紙面を通じて少しでも感じていただければ幸いです。さて、秋も間近となってまいりました。体育祭、文化祭など、楽しいイベントが目白押しシーズンです。みなさんお誘い合わせのうえ、ぜひお越しください。(月)

【お詫びと訂正】
8月号の7ページ『やまぶき賞を3名の方が受賞』の記事中において、青葉会様と木村正男様の紹介写真の掲載位置が、逆になっておりました。訂正し、ご迷惑をおかけした皆様にご深くお詫び申し上げます。